

# 「人馬一体」となれる瞬間を多くの人へ伝えたい

## 夢追い人

～森を生み出す最初の樹～

tree.063

乗馬クラブERDE“えるで”  
大森 友也（おおもりともや）



乗馬クラブERDE“えるで”  
乗用馬の生産や乗馬のレッスンをしている乗馬クラブで、現在はポニーやサラブレッドなど9頭の馬がここで暮らしている。

青森市で、乗馬クラブを一人で経営している大森友也さんに馬への想いを語ってもらいました。

### 【愛する馬と共に生きる】

「人馬一体」となれる瞬間の気持ち良さを皆さんにも知ってもらいたいと思い、青森に移り住み2009年の5月に乗馬クラブ“えるで”をオープンさせました。

私は子どもの頃に馬の美しさに惹かれました。大学在籍中も馬術部に入り、アルバイトでも乗馬クラブで馬の世話をしていました。暴れる馬を任された時は怖くて泣きそうになりながらもまたがりました。しかし、この馬の世話をするうちに、繊細な馬の気持ちを考えるようになりました。そして大会で入賞した時には、馬の気持ちを汲み取り人馬が一体となることの素晴らしさを知りました。この経験がさらに私を馬へと夢中にさせ、馬の道に進むことを決意しました。

ところが、国内各地やドイツで経験を積んでようやく技術が身に付き始め頃、調整中に馬が転倒し約700キロもの馬の下敷きになり左足関節を脱臼骨折してしまいました。リハビリの成果もあり、歩けるまでに回復しましたが完治はできず、失意は大きいものでした。

それでも馬との生活を諦めることはなく、もともと興味のある乗用馬の生産牧場の独立を考えました。「馬の生産をして、さらに乗馬クラブも運営できる場所はどこか」と探して見つけたのがここ青森でした。様々な苦労がありました。知り合いの

馬主から馬を預けてもらうこともでき、なんとかオープンさせることができました。

しかし、オープンして間もなく東日本大震災が発生。当牧場への直接的な被害はありませんでしたが、心配事がありました。それは福島第1原発で緊急時避難準備区域に指定された、取り残されたままの馬たちのことでした。そんな時、NPO法人を通じて被災地で暮らす馬主さんから、飼育費用が掛かるのを覚悟で、一頭の馬「エール」を引き取ることを決めました。約10時間かけて「エール」は“えるで”に無事到着しました。今ではすっかり環境にも馴染み元気がいっぱい草を食べていますよ。

従業員は、私一人の小さい牧場ですが、一人でも多くの青森の皆さんに馬の魅力を伝えて行きたいと思っています。応援、よろしくお願ひ致します。



暑い日差しの中、笑顔で愛する馬の世話をしている大森さんと、福島からやって来た人懐っこいエール。愛称は「えるちゃん」。